

記憶のゆくえ

ART AWARD IN THE CUBE 2020

2020.6.2(火)-7.5(日)
岐阜県美術館 | 岐阜県図書館
[入場無料]

清流の国ぎふ芸術祭
Art Award IN THE CUBE 2020

IN
THE
CUBE
2020

- ADRIAN OSALES
- 大西順明
- 大西仁美
- 笠原珂
- 川島岳大
- 北川純
- 高橋園太郎
- 竹中実幸
- 橋本哲史
- 平田昌輝
- 御倉至
- 森本孝
- 保良雄
- 山本麻璃絵+船野雄也
- Xunli Hong Charpe
- WIN project

Chapter

1

図
版

Catalogue

入選	占部 史人 《空とカタツムリ》	019
入選	ADRIAN O.SALES 《WE GO ON》	023
入選	大西 康明 《時間の溝》	027
入選	大貫 仁美 《秘められた、その「傷」の在処》	031
入選	笠原 巧 《無秩序の中の秩序》	035
遠藤利克 賞	川角 岳大 《私たちの知らない犬》	039
藤森照信 賞	北川 純 《質量保存の法則》	043
川口隆夫 賞	高橋 臨太郎 《Phantom container》	047
篠原資明 賞	竹中 美幸 《記憶の音》	051
入選	宙宙 《cloud》	055
入選	橋本 哲史 《こちら、1001》	059
入選	平田 昌輝 《Artifact 19-2》	063
入選	御宿 至 《SOMETHING GREAT ～記憶の風景～》	067
高嶺 格 賞	森本 孝 《そして、「宇宙の子」は、自ら造った「灰かに酔っているAI」と対決する。》	071
入選	保良 雄 《beclouded, becalmed, belighted》	075
大賞	山本麻璃絵 + 姫野亜也 《石斧をモチーフにした石斧の彫刻》	079
村瀬恭子 賞	Yuni Hong Charpe 《Repeat》	083
福岡伸一 賞	W.N.project 《Light NOWーイマココ》	087

凡例 Notes

- ・清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2020の出品作品を掲載した。
- ・制作年は、すべて2020年である。

Title

空とカタツムリ

Sky and Snail

Artist

占部 史人

URABE Fumito



カタツムリの殻の形態をした螺旋型の彫刻で、中に入ることができ、中から空を見ることができる。トロブリアンドの神話から着想された、人生の悲哀や世界の大きさをカタツムリの螺旋によって表現する作品。

This piece allows you to look to the sky from the inside of a spiral sculpture taking the shape of a snail's shell.

It illustrates the size of our world and the sorrow of the people living in it with the snail's spiral shape—an idea that came to me from the myth of the Trobriand Islands.





占部 史人 URABE Fumito

1984年愛知県生まれ。静岡県拠点。

Born in Aichi Prefecture in 1984 / Based in Shizuoka Prefecture.

2013 / 愛知県立芸術大学博士後期課程 修了

2013 / シャルジャ・ビエンナーレ11優秀賞受賞 / アラブ首長国連邦

2014 / 「個展」七つの夜の海 / 愛知県美術館 / 愛知県

2014 / 「個展」赤米の来た道 / James Cohan Gallery / 中国

2016 / 「個展」蜜の流れる大地 / GALLERY SIDE2 / 東京都

2018 / 水と土の芸術祭2018 / 新潟県

現在 / 静岡大学 教育学部・地域創造学環アート&マネジメントコース講師

〈作品制作協力〉

井原麗奈、河村清加、名倉達了、林脩太、林七海、半田颯太、福宮杏悟



Artist's Comment

社会全体が大変な状況にある中で沢山の方たちのご協力を頂き、全力で作品制作に取り組む機会を頂いたことに感謝しております。自分自身の力不足で、空とカタツムリの神話が持つ世界の大きさを表現しきれなかったことを課題として、今後の作品制作に活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

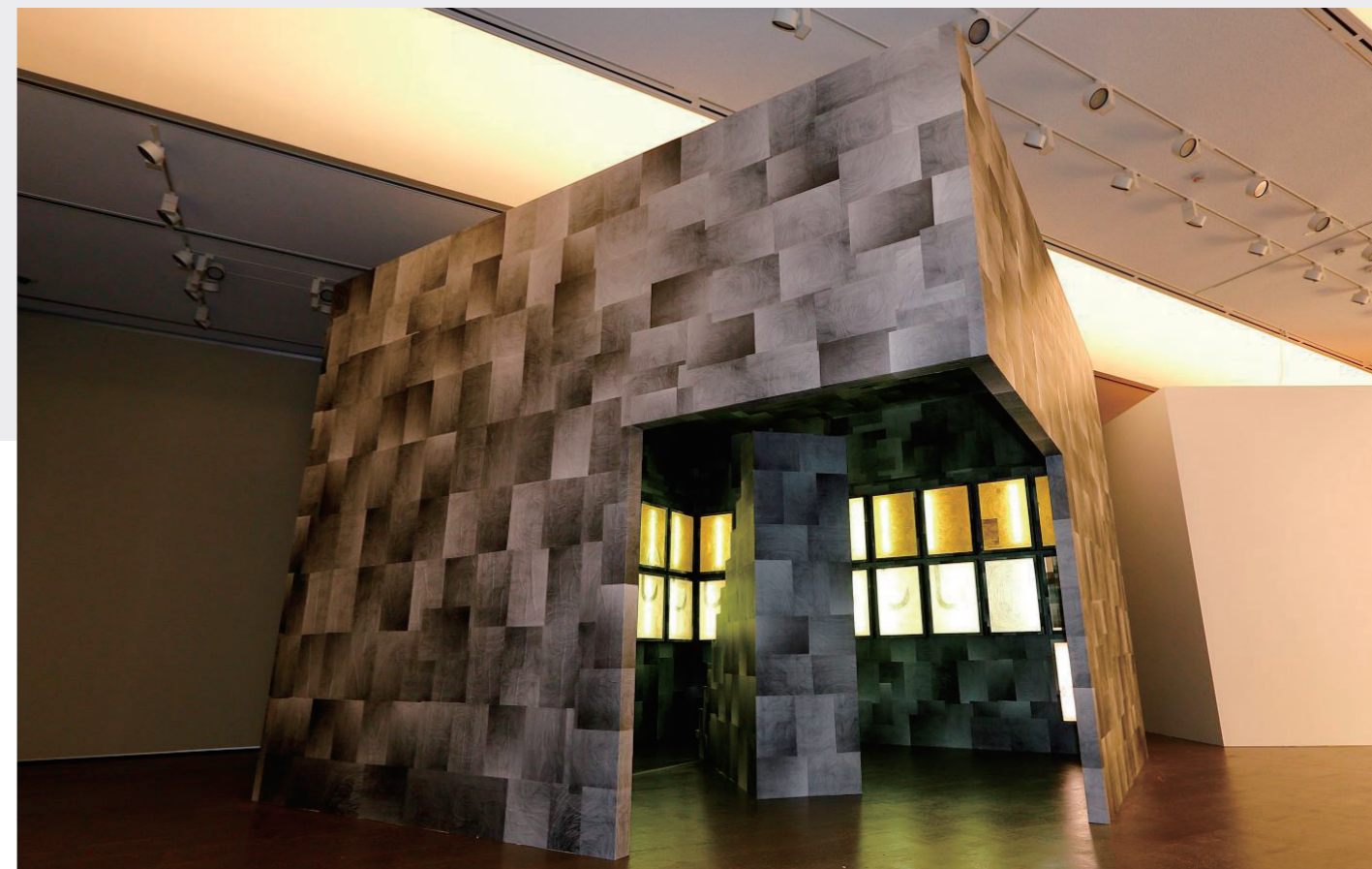


Title

WE GO ON WE GO ON

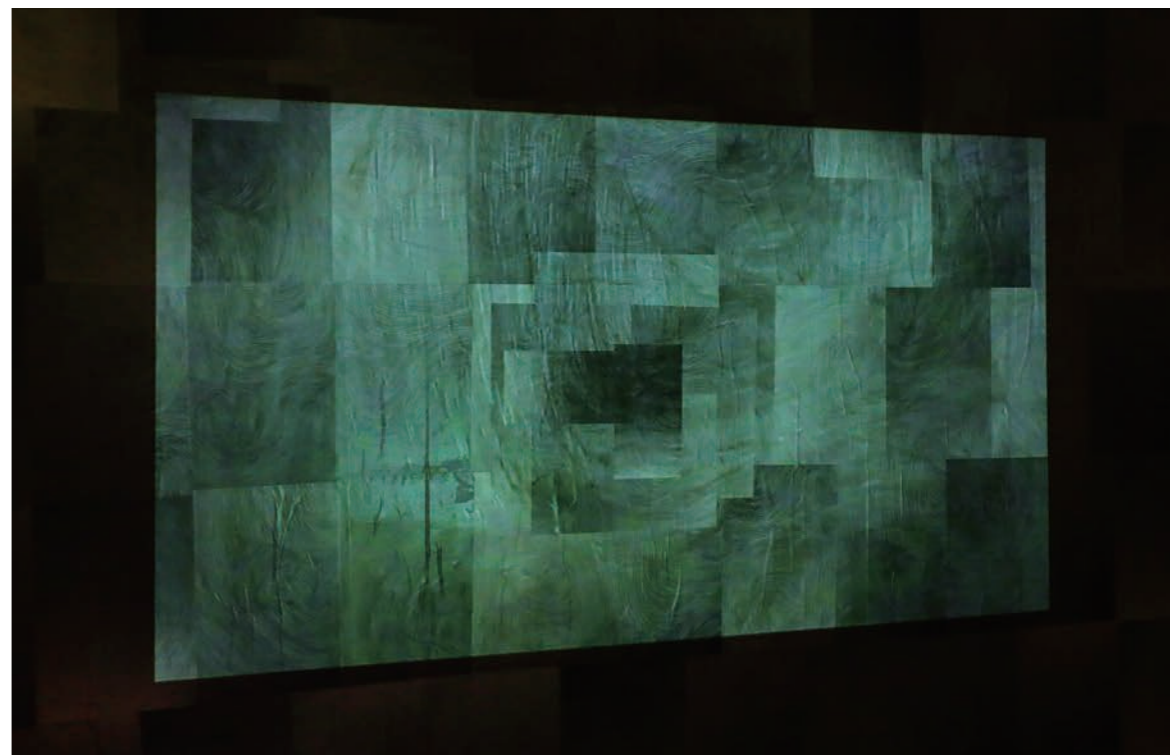
Artist

ADRIAN O.SALES エイドリアン オー サレス



キューブの壁面などに人間の遺伝情報をモチーフとした映像を映し、キューブ内の階段からこれを見る。人間の記憶と人工知能が共同し、未来へと続いていく作品。

Video that has human genetic information motif is projected on the cubicle wall. Visitors see it from the stair in the cubicle. It is the artwork that human memory and artificial intelligent work together and will go on beyond the future.





ADRIAN O.SALES エイドリアン オー サレス

1979年フィリピン生まれ。神奈川県拠点。

Born in Philippines in 1979 / Based in Kanagawa Prefecture.

2000 / TALIWAS SA ARAW (solo exhibition),

UP Vargas Museum, Diliman, Quezon City, Philippines

2001 / GYPSY PUGUE (solo exhibition), ANITA Gallery,

Casa San Miguel, San Antonio, Zambales, Philippines

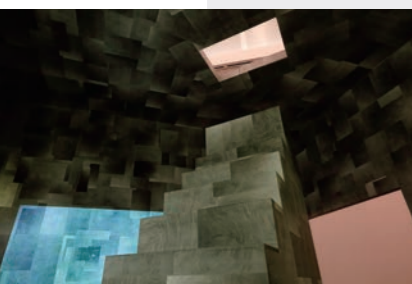
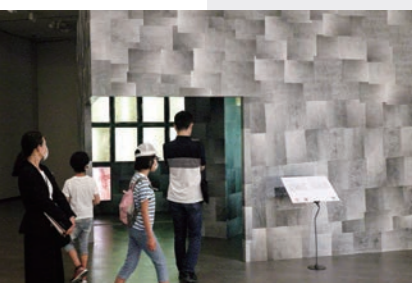
2003 / NAKANPO SA POSITIBO (solo exhibition), ANITA Gallery,

Casa San Miguel, San Antonio, Zambales, Philippines

2010 / KASAKU AWARD, TOYAMA CITY ART FEST, TOYAMA CITY, JAPAN

2019 / CASA REJIDENCY EXHIBIT (group exhibition), ANITA Gallery,

Casa San Miguel, San Antonio, Zambales, Philippines



Title

時間の溝 Ditch of Time

Artist

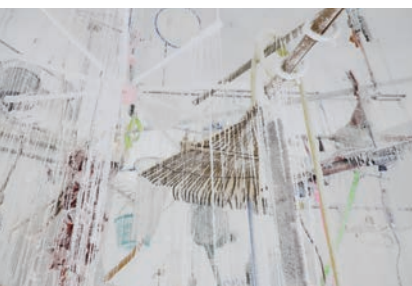
大西 康明 ONISHI Yasuaki



メッシュ構造の机の上に日用品を置き、その上から接着剤を垂らし、無数の垂直線と結晶による風景を作る。空洞や時間の経過から、人の手を離れた非日常や裏側の風景を見る作品。

Everyday items are placed atop a table of mesh construction, and from the top, an adhesive is dripped down to create a display of numerous vertical strings and crystals. This piece offers a glimpse of the unknown and the uncharted through unfilled cavities and the passing of time.





大西 康明 ONISHI Yasuaki

1979年大阪府生まれ。大阪府拠点。

Born in Osaka Prefecture in 1979 / Based in Osaka Prefecture.

2001 / 筑波大学 芸術専門学群技術専攻 卒業

2004 / 京都市立芸術大学大学院 美術研究科彫刻専攻 修了

2007 / 第1回秀桜基金留学賞によりヨーロッパ滞在

2011 / ポーラ美術振興財団在外研修員としてイギリスにて研修

2014 / 想像しなおし / 福岡市美術館 / 福岡県

2017 / 「個展」空間の緑 / アートコートギャラリー / 大阪府

2018 / 水と土の芸術祭2018 / 万代島多目的広場 / 新潟県

2018 / 「個展」Hidden Landscapes / COCONICO Center for the Arts Flagstaff / アメリカ

2019 / Negative Space / ZKM Karlsruhe / ドイツ

〈作品制作協力〉

藤生恭平



Artist's Comment

この作品は「垂直の隙間」という木を天井から吊るし接着剤を垂らした作品から展開したものです。

白いキューブの中で本や日用品と組み合わせることは新しい試みであり、今後の制作へと繋がるものになると考えています。



Title

秘められた、その「傷」の在処

The whereabouts of the hidden "wound"

Artist

大貫 仁美
ONUHI Hitomi



ガラスで制作した、かつて誰かのものであったであろう衣服によって、ある人は覆い隠し、ある人は装飾し、ある人は剥き出しにし、ある人は気づくことなく「生きる」美しい「傷＝記憶」の物語を空間内に展開する。

These pieces are created from glass and symbolize the clothes that people may once have worn, telling the story of "scars as memories". Some people conceal this beautiful notion, and others wear it on their sleeve; some expose it, and others "live" it without ever knowing.





大貫 仁美 ONUKI Hitomi

1987年千葉県生まれ。千葉県拠点。

Born in Chiba Prefecture in 1987 / Based in Chiba Prefecture.

2010 / 武蔵野美術大学 造形学部工芸工業デザイン学科ガラス専攻 卒業

2010 / 武蔵野美術大学卒業制作 優秀賞 / 東京都

2010 / via art 2010 審査員賞受賞 / 東京都

2012 / 武蔵野美術大学大学院 造形研究科工芸工業デザインコースガラス専攻 卒業

2013 / TOKYO DESIGNERS WEEK2013 ASIA AWARDS ヤングクリエイター展入賞 / 東京都

2014 / 個展「Nowhere」/ NANATASU GALLERY / 東京都

2014 / 個展「EMPTY」/ ギャラリー悠玄 / 東京都

2015 / Japan-Baltic Design week MADE IN JAPAN展示招待参加&講演 / リトアニア

2015 / 個展「夜とオオカミ」/ ギャラリー悠玄 / 東京都

2015 / The art fair +Plus-ultra 2015 スパイラル / 東京都

2016 / 第11回三井不動産商業マネジメントオフィス・エキスポ / 東京都

2016 / animalspirit / GalleryQ / 東京都

2017 / ガレリア青猫の8人の立体作家達展 / ガレリア青猫 / 東京都

2017 / けだものだもの展 / FEI ART MUSEUM YOKOHAMA / 神奈川県

2017 / KOGEI ART FAIR KANAZAWA / 石川県

〈作品制作協力〉

岩井美沙、武藤麻衣子



Artist's Comment

新しい試みの作品にひたすら取り組む機会をいただけたこと、美術館での展示を経験することができ、最高の時間でした！設置の際には友人たちにも助けてもらい、ありがたい限りです。コロナ騒動の中、開幕に尽力して下さった関係者の方々にご来場いただいた方々には本当に感謝しかありません。一連の出来事すべてを含めて、改めて「アート」とはなんだろうと考える展示でした。



Title

無秩序の中の秩序

Order in disorder

Artist

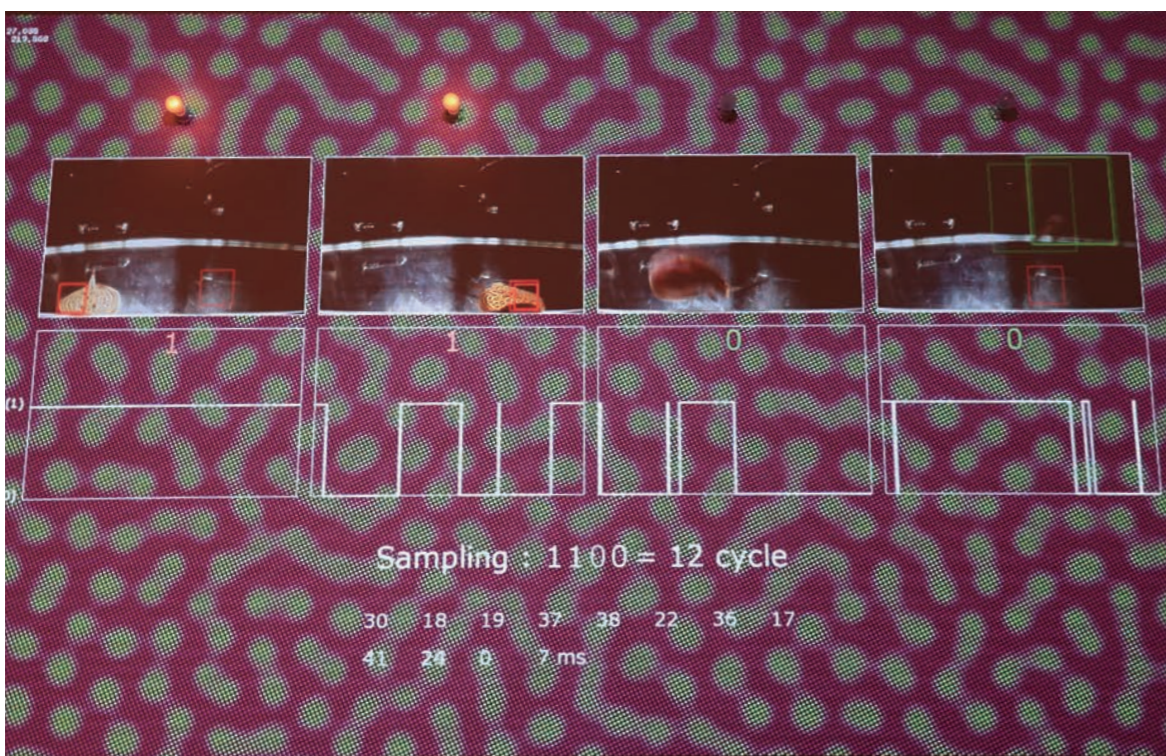
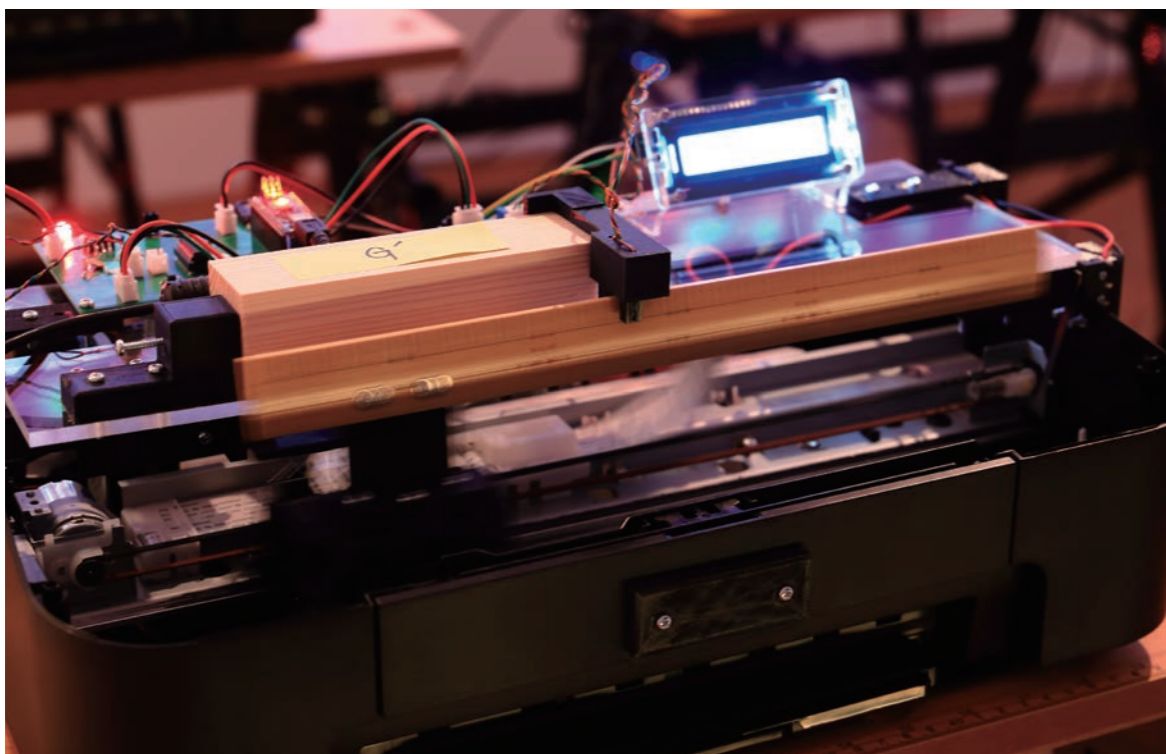
笠原 巧

KASAHARA Takumi



神話に登場する「ガンギエイ」の動きに基づき、複数台の測定機械がキューブ内で長さを測る。エイ特有の二項性と生体の持つ揺らぎが機械を通過し、「長さ」という秩序が空間に出現する。ヒトの古層に流れる神話と科学、未分離の記憶が「場」を介し生成する。

Inside the cube, numerous measurement instruments take measurements of the movement and distance of skates, ray fish appearing in mythology. The binomiality and physical wavering movement unique to rays are interpreted by the machines, and the order offered with "length" shows in the space. Memories which are inseparable from the myths and science creating the older layers of human history come alive within this "space".





笠原 巧 KASAHARA Takumi

1993年岐阜県生まれ。岐阜県拠点。

Born in Gifu Prefecture in 1993 / Based in Gifu Prefecture.

2014 / 岐阜工業高等専門学校 電子制御工学科 卒業

2016 / 神戸大学 海事科学部 卒業

2019 / 神戸大学大学院 海事科学研究科 海事科学専攻 修了

〈作品制作協力(制作アドバイス)〉

安藤泰彦、小林孝浩



Artist's
Comment

初めての展示ということもあり、制作するうえで必要となる経験やだてが私にないなか、多くの方々にサポートいただきました。AAICを通じて、制作を進める過程でこれまでの自身の工学的な技術の使いかた・使われかたを再考することができ、アートとの通底を感じられる貴重な機会となったことがとても嬉しいです。



遠藤利克 賞

Title

私たちの知らない犬

Our dog we don't know

Artist

川角 岳大

KAWASUMI Gakudai



犬の視点とともに滞在制作を行い、その目を重視した展示空間を作る。まっさらなものの方の先に記憶のゆくえのあり方を考える作品。

I partook in an artist residency as I looked through the eyes of a dog and am making an exhibition space devoted to those perceptions.

This piece goes beyond new perceptions to examine the way memories exist.





川角 岳大 KAWASUMI Gakudai

1992年愛知県生まれ。埼玉県拠点。

Born in Aichi Prefecture in 1992 / Based in Saitama Prefecture.

2014 / 愛知県立芸術大学 美術学部美術科油画専攻 卒業

2015 / 絵画の何か / MAT nagoya / 愛知県

2017 / VOCA展2017 / 上野の森美術館 / 東京都

2017 / 「個展」ki → / florist-gallery N / 愛知県

2017 / 東京藝術大学大学院 美術研究科 修了

2018 / 「個展」タイミングの拍子 / fresh / 埼玉県

2019 / その先へ- beyond the reasons / komagome SOKO / 東京都

Artist's Comment



まず歩行を犬に合わせることから始めました。彼が何も知らないように、知らないまま歩く。もしかしたら全部知ってるのかもしれないと思う。その時々が絵の本体な気がして、どうしたらそれをキューブの中へ運び込めるんだろう…方法は分からないままでしたが、だんだん「次の日が来るだけでオッケー」なんだろうなと思うようになりました。

藤森照信 賞

Title

質量保存の法則

Law of conservation of mass

Artist

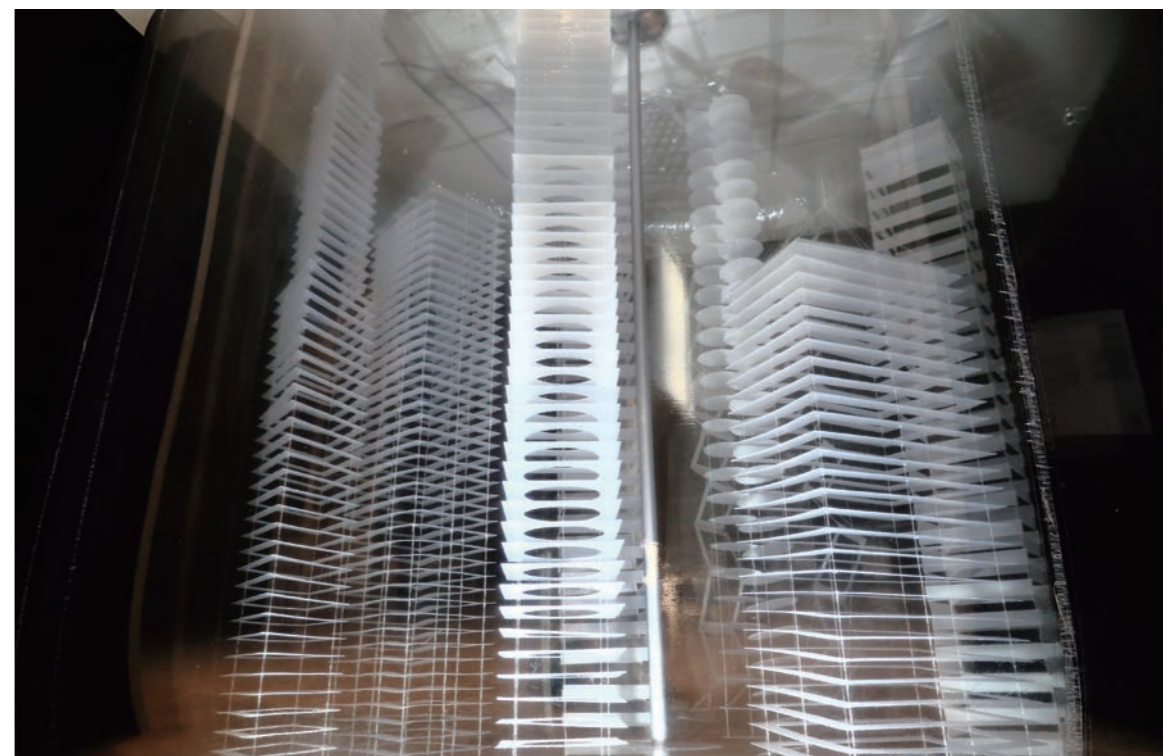
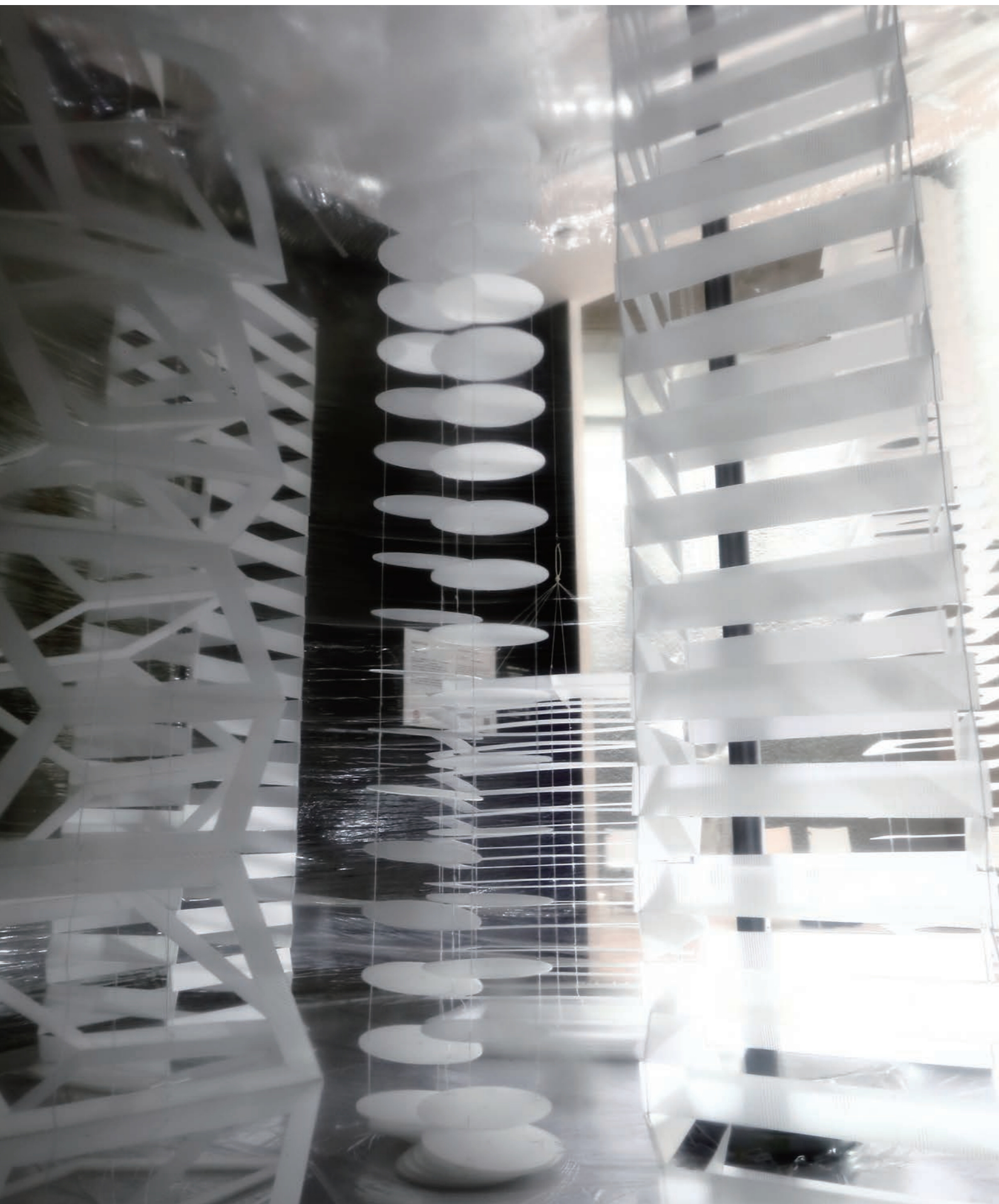
北川 純

KITAGAWA Jun



風船状のビニール袋を膨らませ、林と高層ビルという異なった2つの風景を出現させる。環境の質と量が一定に保ち続けられることを、質量保存の法則として表している作品。

Plastic bags inflated like balloons create two different scenes inside: one with a forest and one with skyscrapers. The piece illustrates the law of conservation of mass by continuously preserving the quality and quantity of the environments with a fixed constant inside.



北川 純 KITAGAWA Jun

1965年愛知県生まれ。神奈川県拠点。

Born in Aichi Prefecture in 1965 / Based in Kanagawa Prefecture.

2000 / Tシャツに風船を入れたことをきっかけに、風船インスタレーション作品として展開。

2003 / キリンアートアワード2003 奨励賞受賞 / 東京都・大阪府

2006 / 小田原市ストリートアートコンペ グランプリ受賞 / 神奈川県

2015 / 六甲ミーツアート 大賞準グランプリ受賞 / 兵庫県

現在 / 風船が次第に巨大化していき、ビッグバルーンアーティストとして活動中。



Artist's
Comment



作品制作においてはとても細かい作業を伴うもので非常に困難を極めました。私のイメージ通りに仕上がりました。作品主題の一つである「自然と文明の対比・同化」は鑑賞者の方にもわかりやすかったようですが、裏テーマとして設定していました「男と女とその間」のほうは伝わらなかったようです。作家としての力量の未熟さを痛感し、今後の創作活動に生かしていきたいと思っています。



Title

Phantom container

Phantom container

Artist

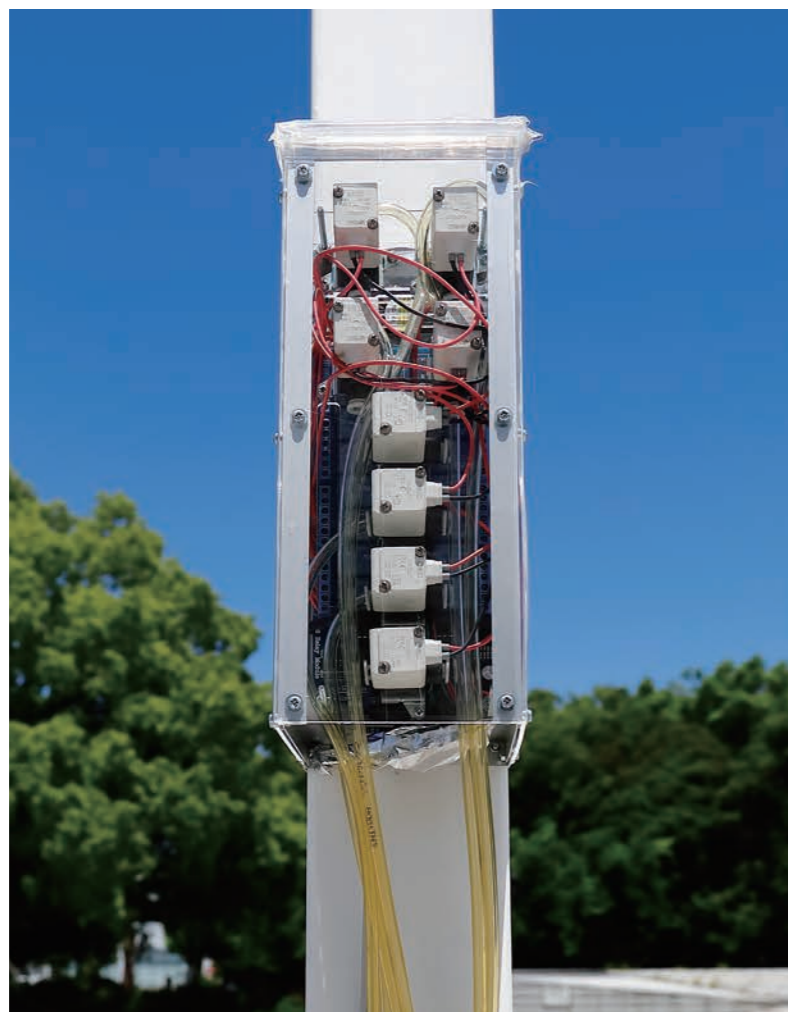
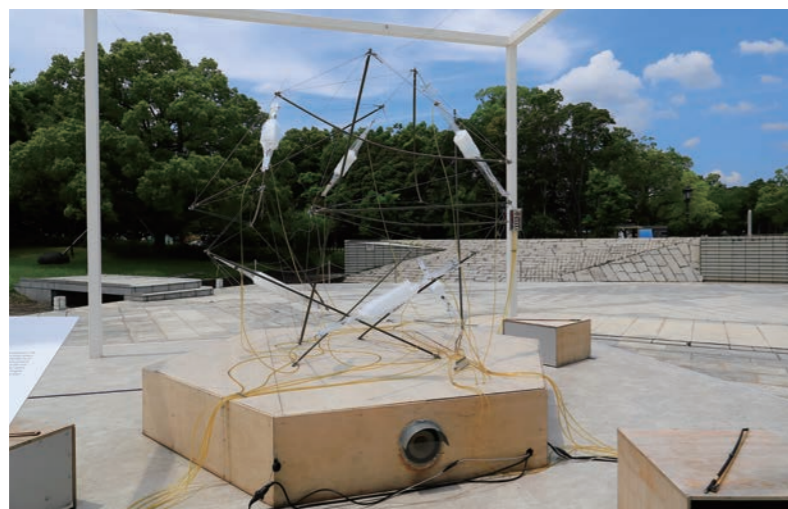
高橋 臨太郎

TAKAHASHI Rintaro



幻肢(失われた手足が今もあるという感覚)を持つ当事者の方の失われた身体のイメージをキューブの中に表現する。失われた身体の記憶が、生き生きと立ち上がってくる作品。

This piece illustrates the lost body part of someone with phantom limb (the sensation of a lost limb still existing) inside the cube. It brings back to life the memory of the body part which has been lost.





高橋 臨太郎 TAKAHASHI Rintaro

1991年東京都生まれ。東京都拠点。

Born in Tokyo in 1991 / Based in Tokyo.

2016 / Seaside Poolside / 稲毛海浜公園プール / 千葉県

2017 / 大地の靈性 / モデルルーム / 東京都

2018 / Social Concrete / WK Gallery / 東京都

2018 / そとのあそび展 / 市原湖畔美術館 / 千葉県

2019 / 「個展」スケールヒア / BLOCK HOUSE / 東京都

現在 / 東京藝術大学大学院博士後期課程 在籍中

〈作品制作協力〉

今井 剛、岩田 和希、倉沢 奈津子、Mission ARM Japan(協力団体)



Artist's Comment

今回、幻肢という難題なテーマ、そして特別な状況下での展示ということで、自分のキャパシティを大きく超えた制作でした。様々な方々の協力なくしては完成することはありませんでした。ご協力して下さった皆様に改めて感謝いたします。



篠原資明 賞

Title

記憶の音 Sounds of Memory

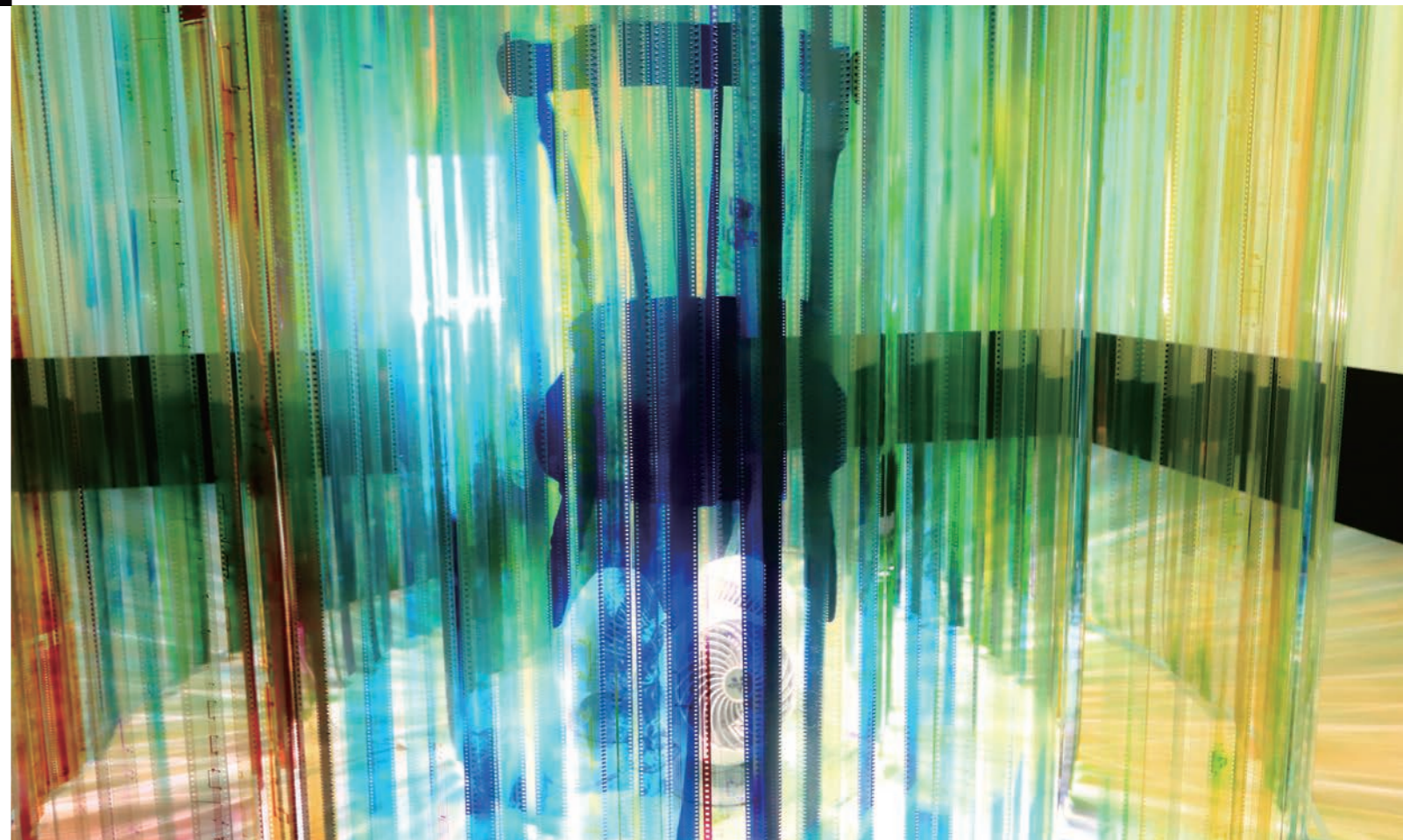
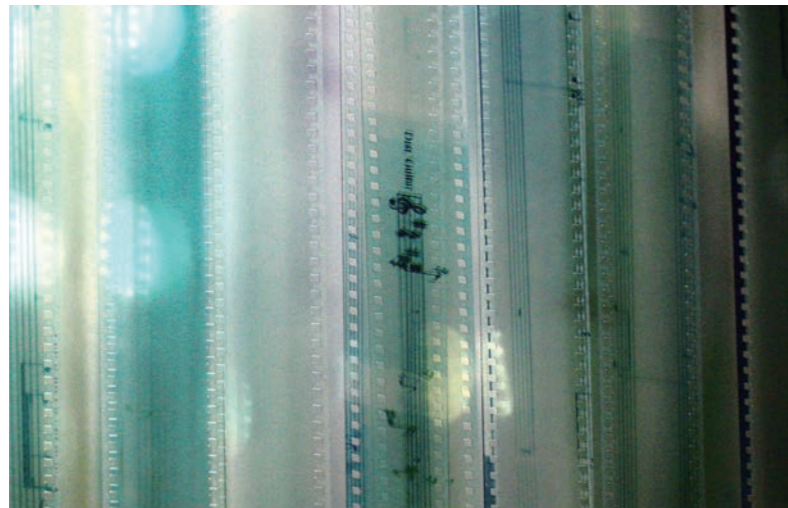
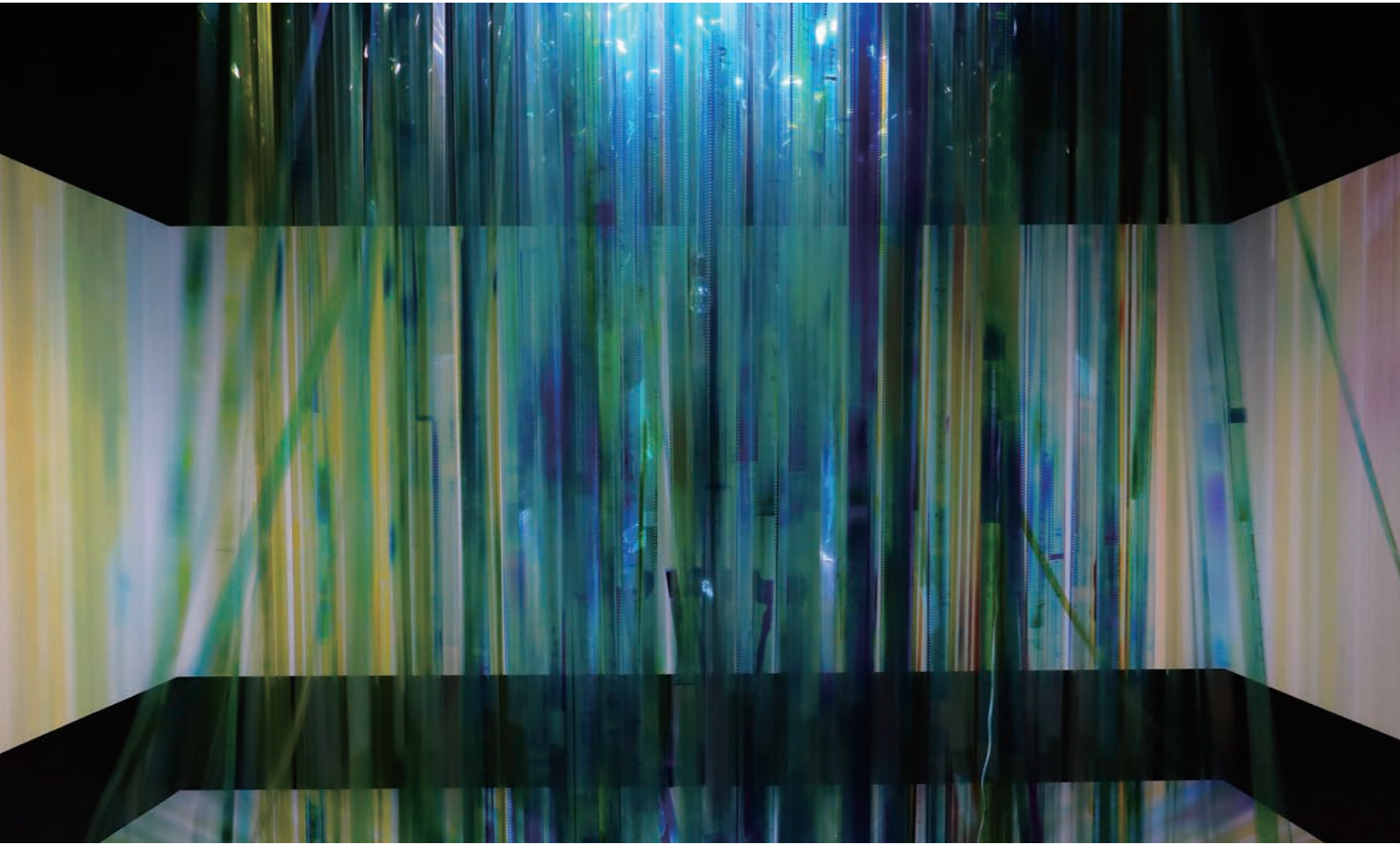
Artist

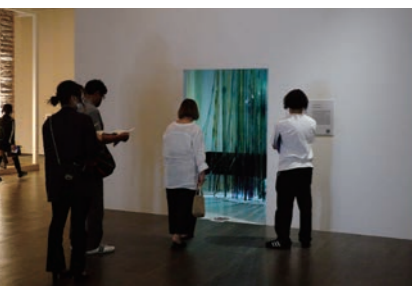
竹中 美幸 TAKENAKA Miyuki



日々の様々な音(主に時を告げる音)を音符にし、その譜面を焼き付けた映像用フィルムと光によるインスタレーション。音を可視化し、フィルムに焼き付けることで、過去の記憶を新たな物語とする作品。

This is an installation created from light and movie film showing a score of various everyday sounds (mainly indicating time) put down as musical notes. The piece makes sound visible, and by developing it on film, past memories become new stories.





竹中 美幸 TAKENAKA Miyuki

1976年岐阜県生まれ。東京都拠点。

Born in Gifu Prefecture in 1976 / Based in Tokyo.

1997 / 多摩美術大学 美術学部絵画学科油画専攻 入学

2003 / 多摩美術大学大学院 美術研究科絵画専攻 修了

2001 / ノキアアートアワードアジアパシフィック2000 / アジア第3位 / 韓国(表彰地)

2010 / トーキョーワンダーウォール ワンダーウォール賞受賞 / 東京都

2012 / シェル美術賞 島敦彦審査員奨励賞受賞 / 東京都

2018 / クインテットIV 五つ星の作家たち / 東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館 / 東京都

2018 / 「個展」新たな物語 / アートフロントギャラリー / 東京都

現在 / 余白のある絵画作品や、作品内に光と影を取り込むアクリル板と

透明樹脂を用いた作品、近年では映画のフィルムを感光・現像させた作品を発表。

2017年には壁面30mの作品を北京にて制作、設置。

〈作品制作協力〉

ArtTank



Artist's Comment

制作が佳境に入る頃、日に日に日本も世界もわたしたちの知らないところに向かってゆきました。完成後、開幕延期により美術館の中で静かに待つ作品を思い返すことしか出来ないもどかしい日々もありました。作品と自分の距離、作品をつくること、みてもらうということ、当たり前すぎた根底の部分を見つめ直す機会となり、この時期に制作、設営、展覧会会期が重なったことで様々な面において今後も忘れることのない貴重な経験となりました。



Title

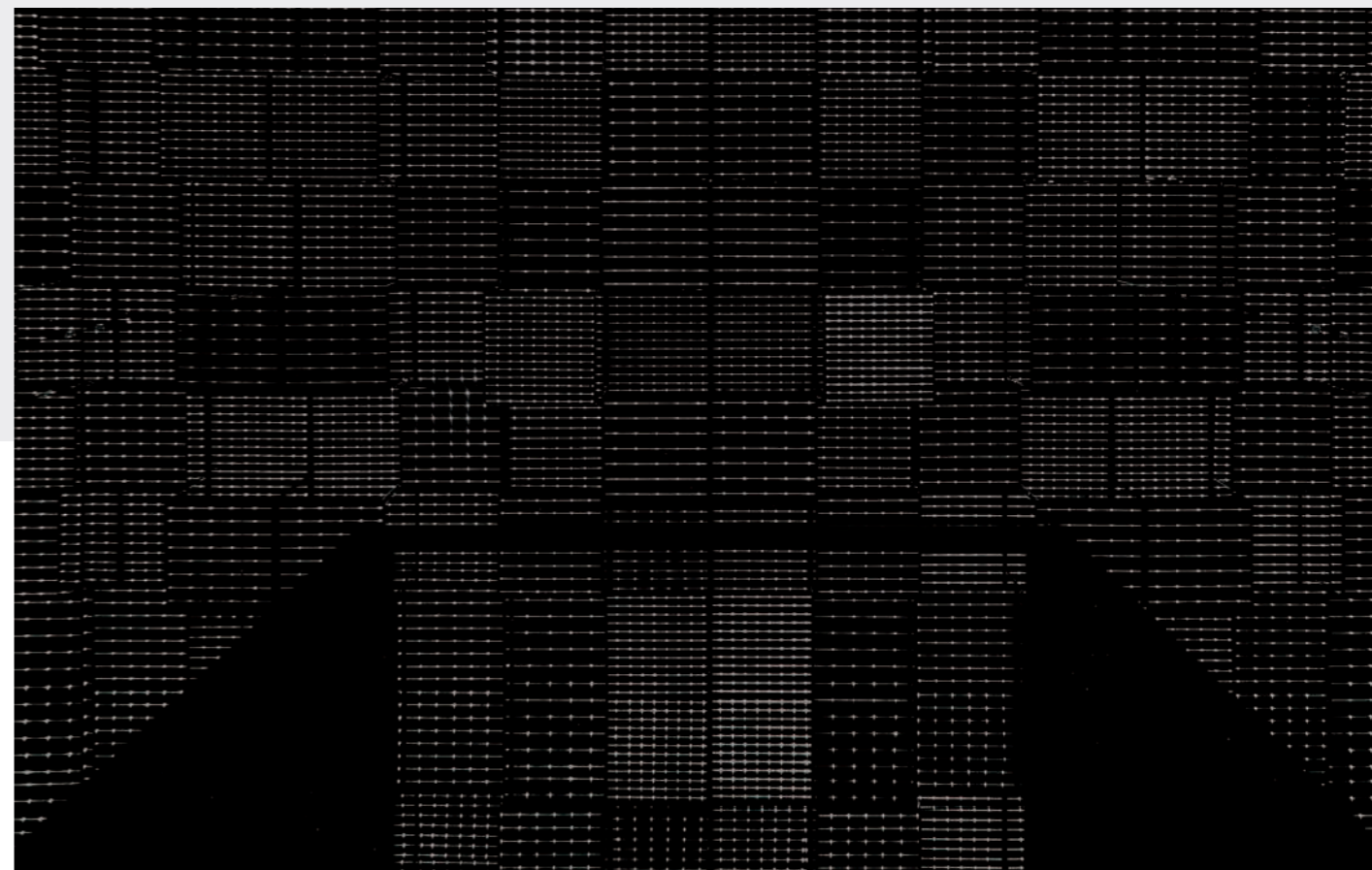
cloud

cloud

Artist

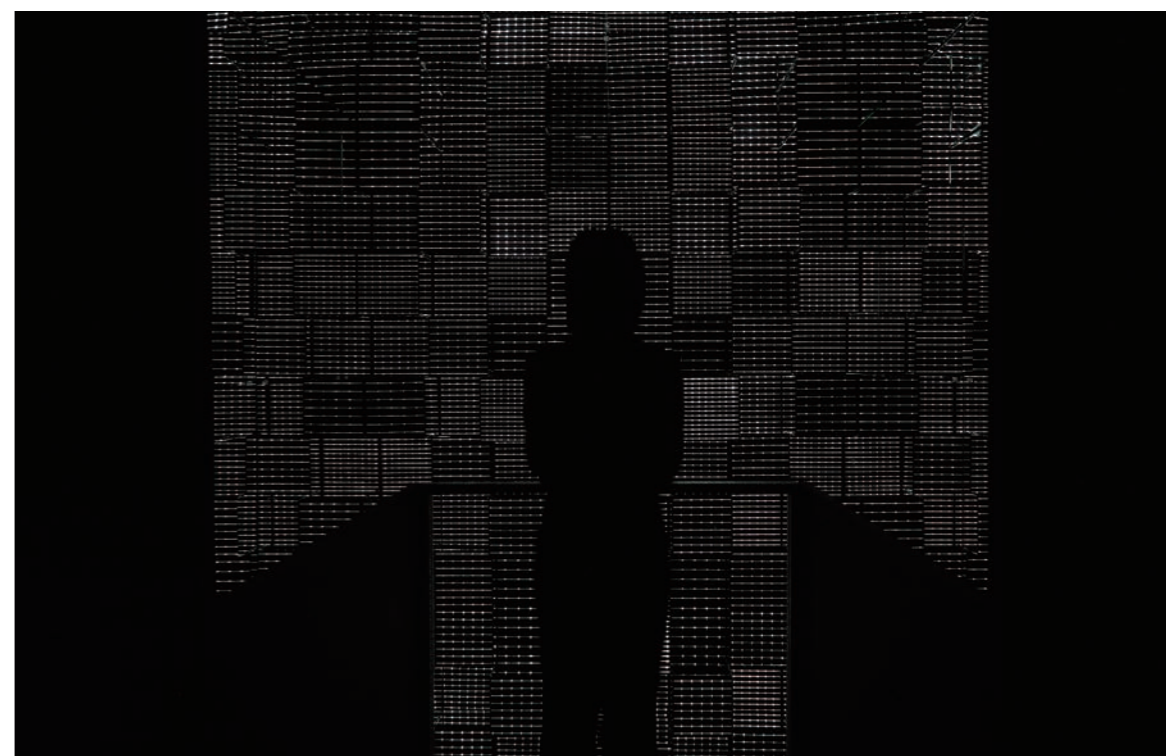
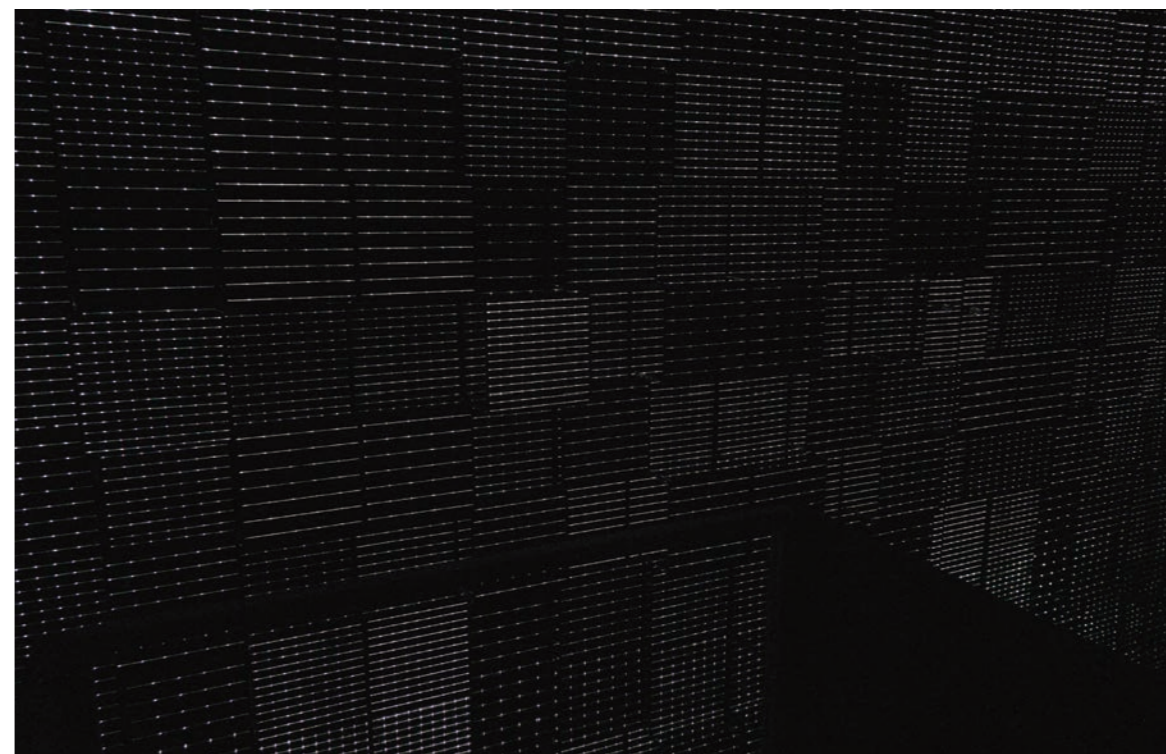
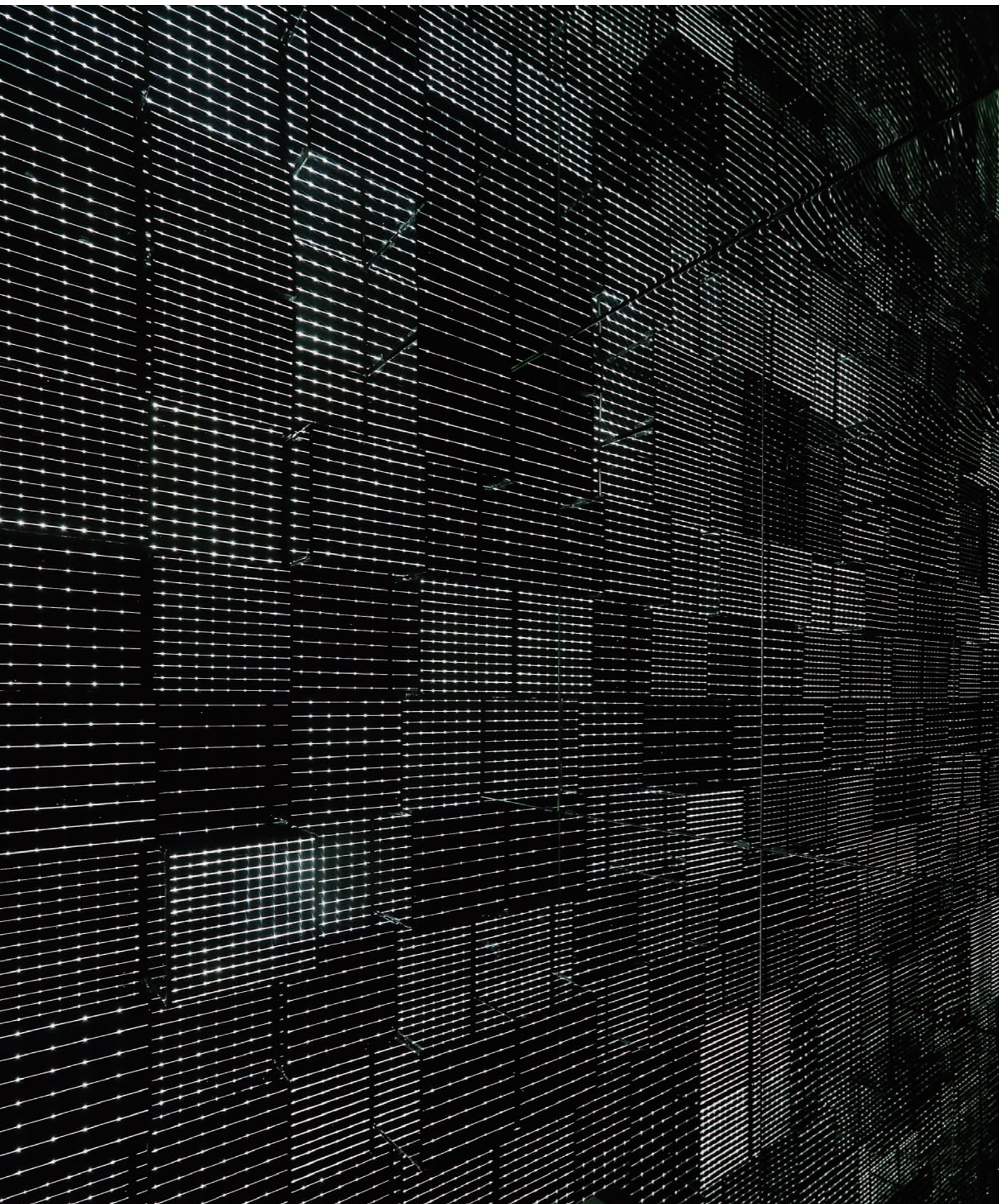
宙宙

chuchu



キューブ内部に箱状の作品を設置し、暗闇の中に距離感のつかめない光の点群が浮き上がる。知覚は揺さぶられ、宇宙空間に放り出されたかのような感覚は、鑑賞者を重力や大きさから解き放ち、私たちの奥底に眠る記憶を呼び起こす。

A box-shaped piece is installed in the cube with numerous specs of light floating in darkness, such that viewers cannot get a grasp of their distance. The viewer's perception is shaken as they sense they've been hurled into the cosmos, releasing them from gravity and size to awaken the sleeping memories deep within them.



宙宙 chuchu

2017年活動をスタート。京都府、愛知県拠点。

Formed in 2017 / Based in Aichi and Kyoto Prefecture.

2001 / アイスランド芸術大学 交換留学 / アイスランド

2003 / Winchester school of Arts、サウサンプトン大学 美術学部彫刻科 卒業 / イギリス

2017 / 宙宙活動開始

2018 / 「はじまりのはじまり」 / 浜松市鴨江アートセンター / 静岡県

2018 / 「第54回神奈川県美術展」奨励賞受賞 / 神奈川県

2019 / Co-program カテゴリーC「水になる」 / 京都芸術センター / 京都府

2020 / 「宙宙海中公園」 / 浜松市鴨江アートセンター / 静岡県

Artist's
Comment

大きな作品をつくるにあたり、技術的な相談をしながら制作ができ、展示などへの多くのサポートを頂けたのが有難かった。制作場所の提供や、そこから展開するワークショップなどの地域の方との交流があると、展覧会へと続く体験を共有でき、展示準備の協働へと繋がる流れが生まれるように思う。



Title

こちら、1001

This is 1001

Artist

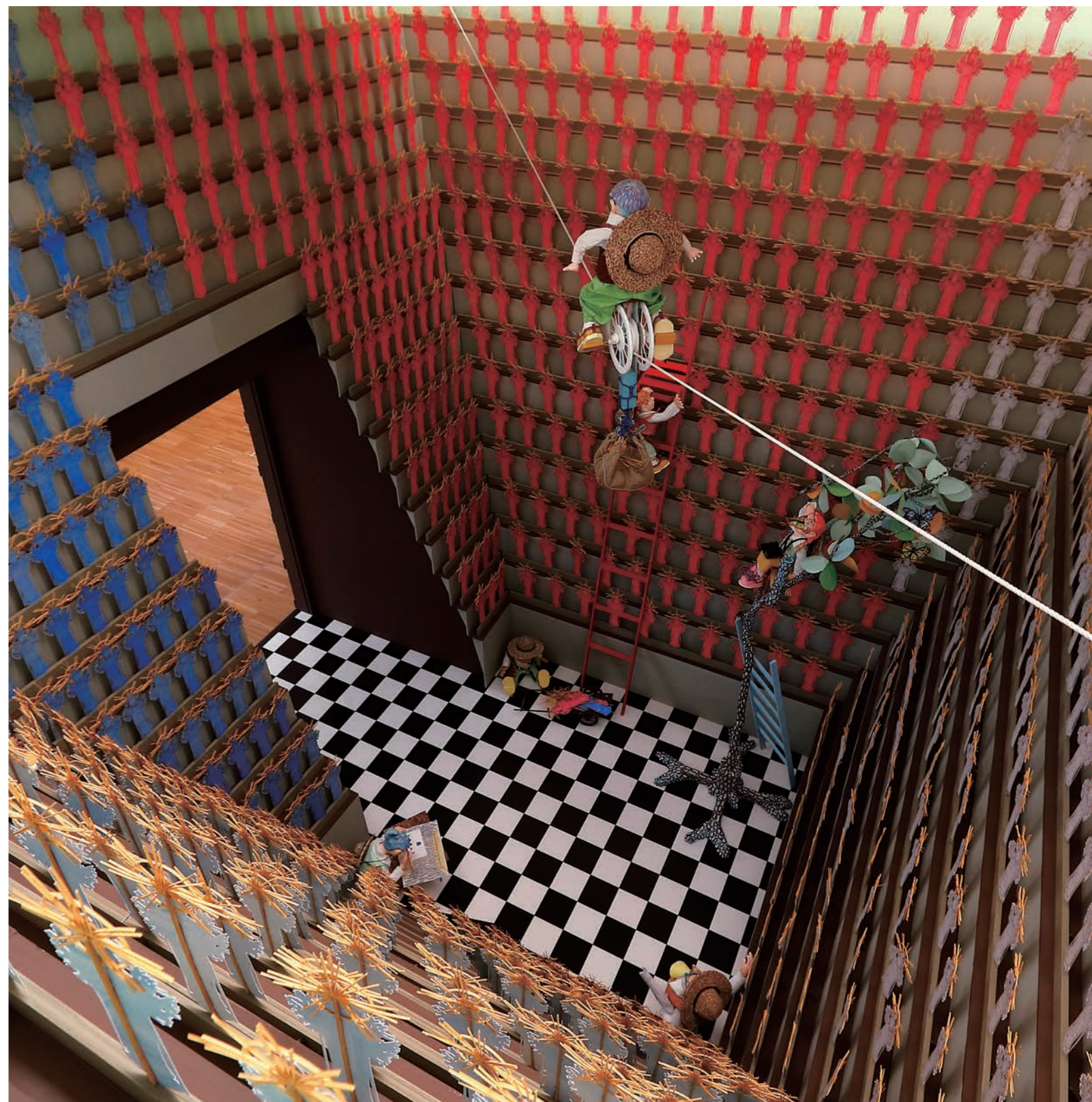
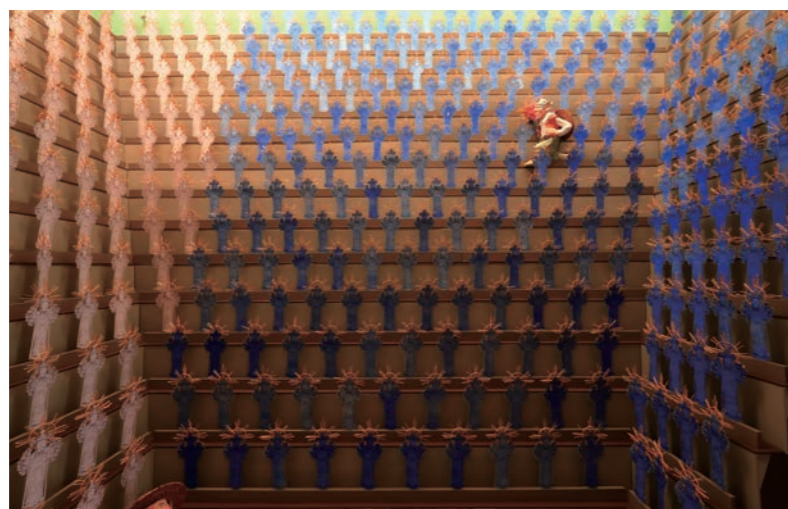
橋本 哲史

HASHIMOTO Satoshi



外面は、平安後期から「記憶」された一千一体黄土色仏の世界観。内面は、その「ゆくえ」となる一千一体仏像群を制作する現代版を表現。創作するのは、個性豊かなクリエイター達が力を合わせ、外面の荘厳さとは対照的な世界を新たに作り上げる。

The outside of the cube portrays the 1,001 ochre-yellow Kannon statues as they have been “remembered since” the end of the Heian period. On the inside, you can see a modern-day version of those 1,001 statues to show “where those memories have ended up”. Highly individualistic artists join forces in this project and give a new perspective to the statues distinct from the majestic ones depicted on the outside.





橋本 哲史 HASHIMOTO Satoshi

1954年京都府生まれ。京都府拠点。

Born in Kyoto Prefecture in 1954 / Based in Kyoto Prefecture.

1981 / 京都市立芸術大学 美術学部油彩科 卒業
 1987 / 「人形達」展 アイデア賞受賞 / 大阪府
 1989~2003 / パンリアル展 / 京都市美術館 / 京都府
 1992 / 日本海美術展 奨励賞受賞 / 富山県立近代美術館 / 富山県
 1994 / 芸術祭典・京四条ストリートギャラリー-94四条繁栄会理事長賞受賞 / 京都府
 1995 / 日本海美術展 奨励賞受賞 / 富山県立近代美術館 / 富山県
 1996 / 第3回人間賛歌大賞展 奨励賞受賞 / 北里研究所メディカルセンター / 埼玉県
 第11回ユザワヤ創作大賞展 佳作賞受賞 / 東京交通会館 / 東京都
 1998 / 第13回ユザワヤ創作大賞展 佳作賞 / 東京交通会館 / 東京都
 2002 / 第5回人間賛歌大賞展 奨励賞受賞 / 玉森然記念館 / 埼玉県
 2007 / 第6回人間賛歌大賞展 佳作賞受賞 / 玉森然記念館 / 埼玉県
 2008 / 第7回西脇市サムホール大賞展 大賞受賞 / 西脇市岡之山美術館 / 兵庫県
 2012 / 第9回西脇市サムホール大賞展 優秀賞受賞 / 西脇市岡之山美術館 / 兵庫県
 2014 / 第10回西脇市サムホール大賞展 優秀賞受賞 / 西脇市岡之山美術館 / 兵庫県
 2019 / Ge展参加

〈作品制作協力〉

画箋堂、彩雲堂、山田塗料商店、橋本幸枝、岩井博三、岩井恵子、秋山昭子、古田大、古田志保、橋本學、橋本麻友香、橋本幸優、古田崇、水沢保久、ボランティアの皆様

Artist's Comment



今季の新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために、どのようになるのかと心配した展覧会でした。多くの展覧会が中止になったにも関わらず、AAIC展は延期・延期の末に漸く開催され、主催者・スタッフ・岐阜県美術館・ボランティアのご努力とご対応には、感謝しかありません。苦労した搬入作業から作品発表・搬出作業を終えて、一旦気持ちを小休止してもいいのに、早々にAAIC展の新たな作品プランが生まれました。尽きない発想と創作力を生み出す本展の魅力と可能性をこれまで以上に強く感じています。

Title

Artifact 19-2

Artifact 19-2

Artist

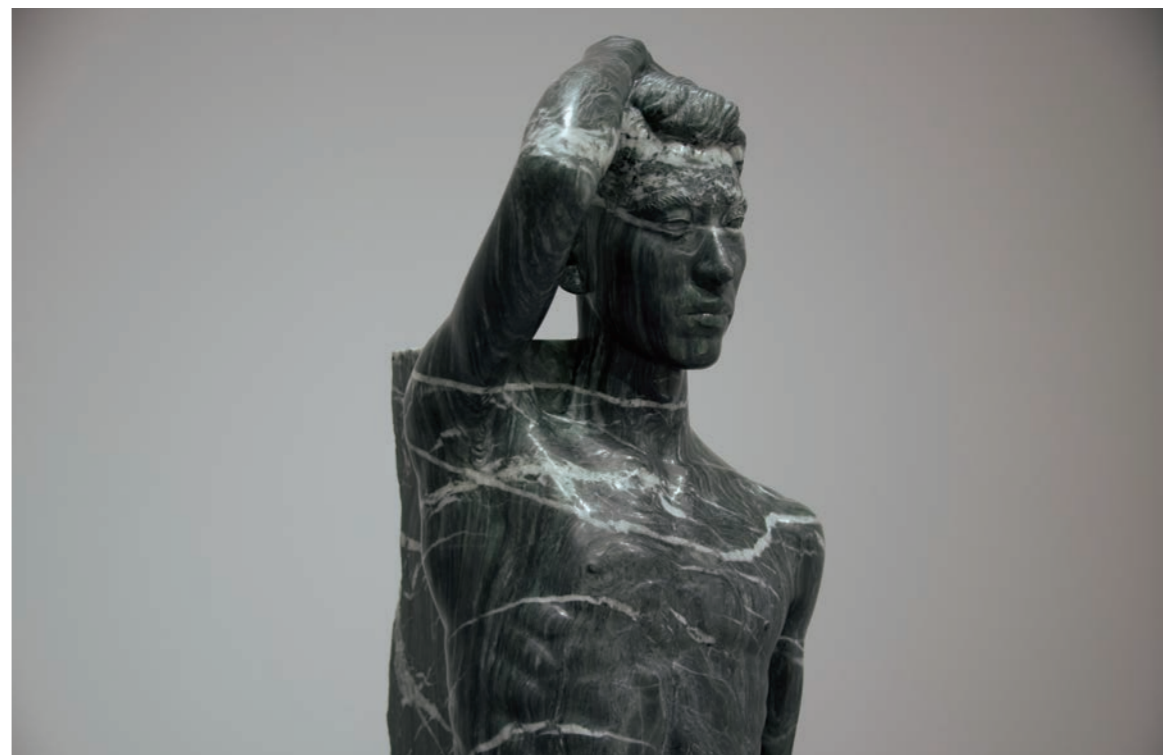
平田 昌輝

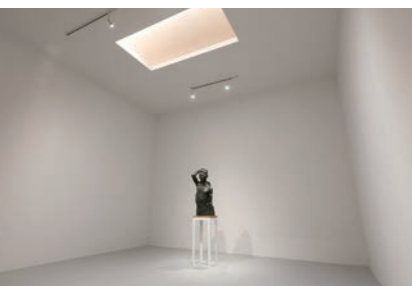
HIRATA Masaki



日本列島形成に伴ってできた三波川変成岩類と呼ばれる地質体の変成岩である緑色片岩を彫刻し、裸体男性の半身像を象る。砥石で研ぎあげ、石の形成過程でできた文様をあらわにする。消えても消えない、忘れても忘れられないものを現出させる試み。

This piece uses greenschist to carve a statue of the nude upper half of a male body using metamorphic stone from the geological zone of the Sambagawa metamorphic belt formed along the shape of the Japanese archipelago during its creation. Polished with a whetstone, the piece reveals the pattern given to the stone in its formation. This project is an attempt to show what disappears, yet remains; what is forgotten, yet unforgettable.





平田 昌輝 HIRATA Masaki

1981年富山県生まれ。富山県拠点。

Born in Toyama Prefecture in 1981 / Based in Toyama Prefecture.

2007 / 東京藝術大学大学院 美術研究科 修了

2009 / 身近な川や山の石での制作を開始

2013～ / 富山大学 芸術文化学部 講師

2014～2017 / 同大学の大藤茂教授(地質学)協力のもと、全国各地の変成岩を中心に石の調査を実施

2015 / 原始感覚美術祭2015 / 長野県

2017 / 「個展」彫刻における石の回廊、未踏の / ギャラリーなつか / 東京都

2018 / 第14回大分アジア彫刻展 / 朝倉文夫記念文化ホール / 大分県

2018 / 「個展」 / ギャラリーなつか / 東京都

2019 / 「個展」Artifacts / ギャラリー無量 / 富山県



Artist's Comment

コロナ禍の難しい状況の中でご尽力いただいた関係の方々
に心から感謝申し上げます。この状況の中、この展覧会で、
また岐阜県美術館のキューブの中で、自身の作品とじっくり
対峙できたことはまさに得難い経験でした。多くの反省と
気づきを今後に繋げます。



Title

SOMETHING GREAT ～記憶の風景～

SOMETHING GREAT ～Scene of Memory～

Artist

御宿 至
MISHIKU Itaru



現代社会を象徴し、世界の物流現場で無数に使用されているパレット(荷台)を用い、脳内
にある“記憶の貯蔵庫”には、それ以上の数の「記憶が収められた引き出し」があること
を喚起し、僕たちの身体にある壮大な宇宙の神秘を表現する。

This project uses the innumerable pallets used at the world's logistics sites—
symbols of our modern society—to depict the even more numerous “drawers of
memories” from the “storehouses of memories” in our brain and depicts the
mystery of the expansive space within our bodies.





御宿 至 MISHIKU Itaru

1949年静岡県生まれ。静岡県、イタリア拠点。

Born in Shizuoka Prefecture in 1949 / Based in Shizuoka Prefecture and Italy.

1977 / イタリア国立ローマ美術アカデミー彫刻科(エミリオ・グレコ教室) 卒業
 1992 / 日本・イタリア新世代展 / イタリア国立ローマ近代美術館・ローマ日本文化会館 / イタリア
 2001 / 彫刻によるヨーロッパでの出会い展 / モントーバン文化センター / フランス
 2004 / 「個展」再生 / ローマ大学所属現代美術実験美術館 / イタリア
 2005 / 「個展」結界 / スポレート現代美術館 / イタリア
 2007 / 日本通運(株)創立70周年記念事業モニュメント
 「安全の誓い」制作コンクール 大賞受賞 / 東京都
 2018 / 「個展」風儀(てぶり) / オリエアートギャラリー / 東京
 2019 / めぐるりアート静岡2019+(Something Great～記憶の風景～) /
 主催 静岡県文化財団 / グランシップ / 静岡
 2019 / めぐるりアート静岡2019(Tops - 場) /
 主催 静岡市文化財団、文化庁 / 東静岡アート&スポーツヒロバ / 静岡
 2020 / 第16回KAJIMA彫刻コンクール作品展 / 鹿島KIビル / 東京
 現在 / ローマ市(イタリア)と富士宮市を拠点に創作活動を続ける。

〈作品制作協力〉

アヘッドプロ、遠藤電気管理事務所、株式会社 SET UP、工房自遊人、スター精密株式会社、丸甲南部木材株式会社(企業6社)、岩崎和由、加藤利忠、近藤正寛、佐野友之、白井正幸、中村光志(個人6名)

Artist's Comment

未曾有のコロナ禍での開催となり、他の入選作家の人たちとの接点が希薄だったのが残念でした。しかし、岐阜県の現代美術に取り組む一端に触れることが出来、貴重な体験でした。こうした試みが、他県の文化行政のモデルの一つとなることを願うと同時に、アートを通して世界の人々と繋がることの素晴らしさの動機付けとして花開くことを祈ります。



Title

そして、「宇宙の子」は、自ら造った「仄かに酔っているAI」と対決する。

And "The children of the universe" shall confront the "Slightly drunk AI" that they created.

Artist

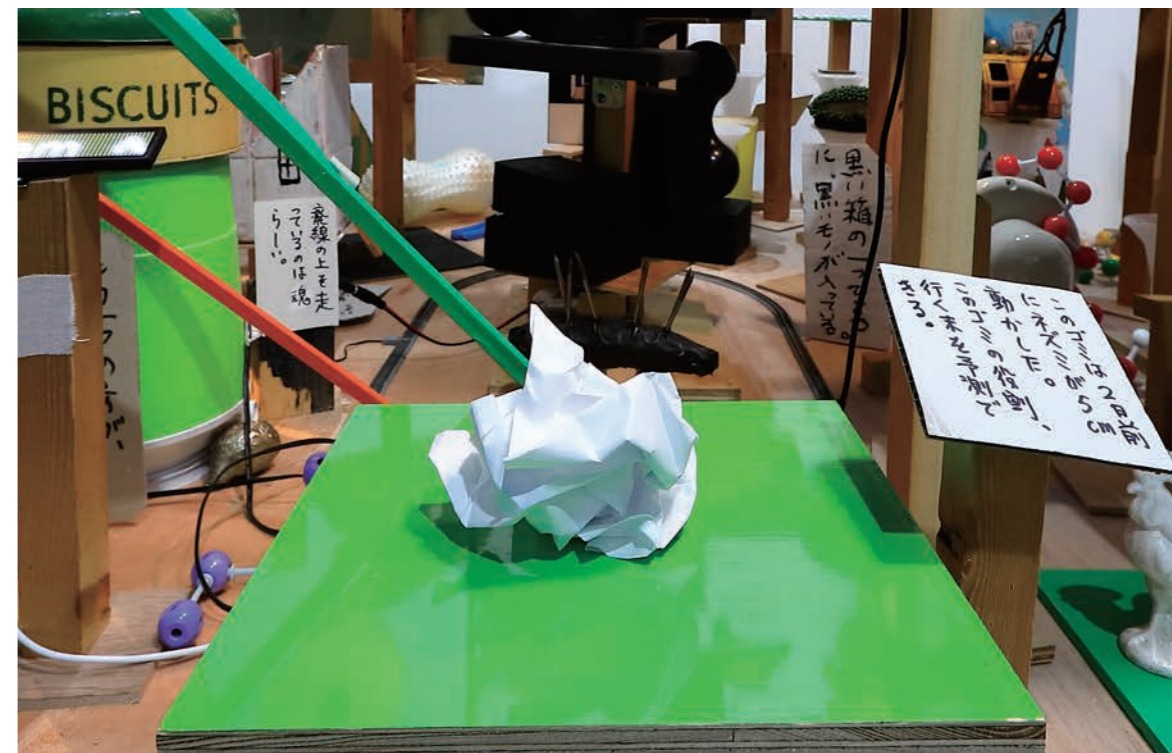
森本 孝

MORIMOTO Takashi



宇宙の記憶を持つ粒子から成る人。今や人が造ったAIが、核以上に人を支配し、別の記憶主体になろうとしている。いずれ、究極の仄かに酔ったAIが人と対決する。が、あなたも私も、死により突然、個人の記憶と共に消え、無意味な無存在となる。(その物語。)

Humanity exists due to the memory held by the particles of space. At present, the AI which humanity has created is working to control him to a degree stronger than that of nuclear weaponry and become the new holder of memory. Eventually, an extreme, though slightly drunk AI will stand against humanity. However, through death, both you and I will naturally disappear with our personal memories, fading into a meaningless nonexistence. (This is the story of the piece.)





森本 孝 MORIMOTO Takashi

1946年岡山県生まれ。神奈川県拠点。

Born in Okayama Prefecture in 1946 / Based in Kanagawa Prefecture.

1968 / 京都大学法学部 卒業

2006 / 自動車会社などで就労後、定年退職

2011 / 横浜のBankArt講座「靴箱から広がる宇宙-宇宙はメカニズムで充ちる。かな?」に参加。
その時点(65歳)より制作を開始。

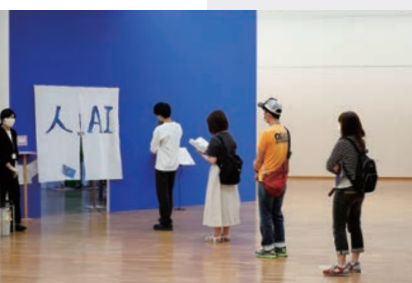
2011 / アーツ千代田3331ポコラートvol2 椿昇賞受賞 / 東京都

2012 / アーツ千代田3331ポコラート入賞者展 / 東京都

2013 / 横浜BankArt スタジオに参加、制作、展示 / 神奈川県

2016 / 第19回岡本太郎現代芸術賞 入選 / 岡本太郎美術館 / 神奈川県

2013~2018 / 日本アンデパンダン展 / 新国立美術館 / 東京都



Artist's Comment



「とにかく、コロナ禍の中、一般公開できたのは、立派でした。ぼくにも心からの安堵と感謝と喜びがあります。ただ、コロナで仕方ない事ですが、一般のお客さんがぼくの作品にどんな反応をするのか、は全く見えませんでした。なんでも良いから、おもしろい、全くわからない、楽しい、など、何らかの心的刺激を残せたら幸いです(が、それがわからないのが残念、わかる仕掛けが欲しかった)。もう一つ、今後の事を考えるとAAICと言う名前が弱いと感じます、人に覚えてもらうための強い名前が必要。日本と世界に向けて、「ぎふ+Cube」を中核に再考を望みたい。」



Title

beclouded, becalmed, belighted

beclouded, becalmed, belighted

Artist

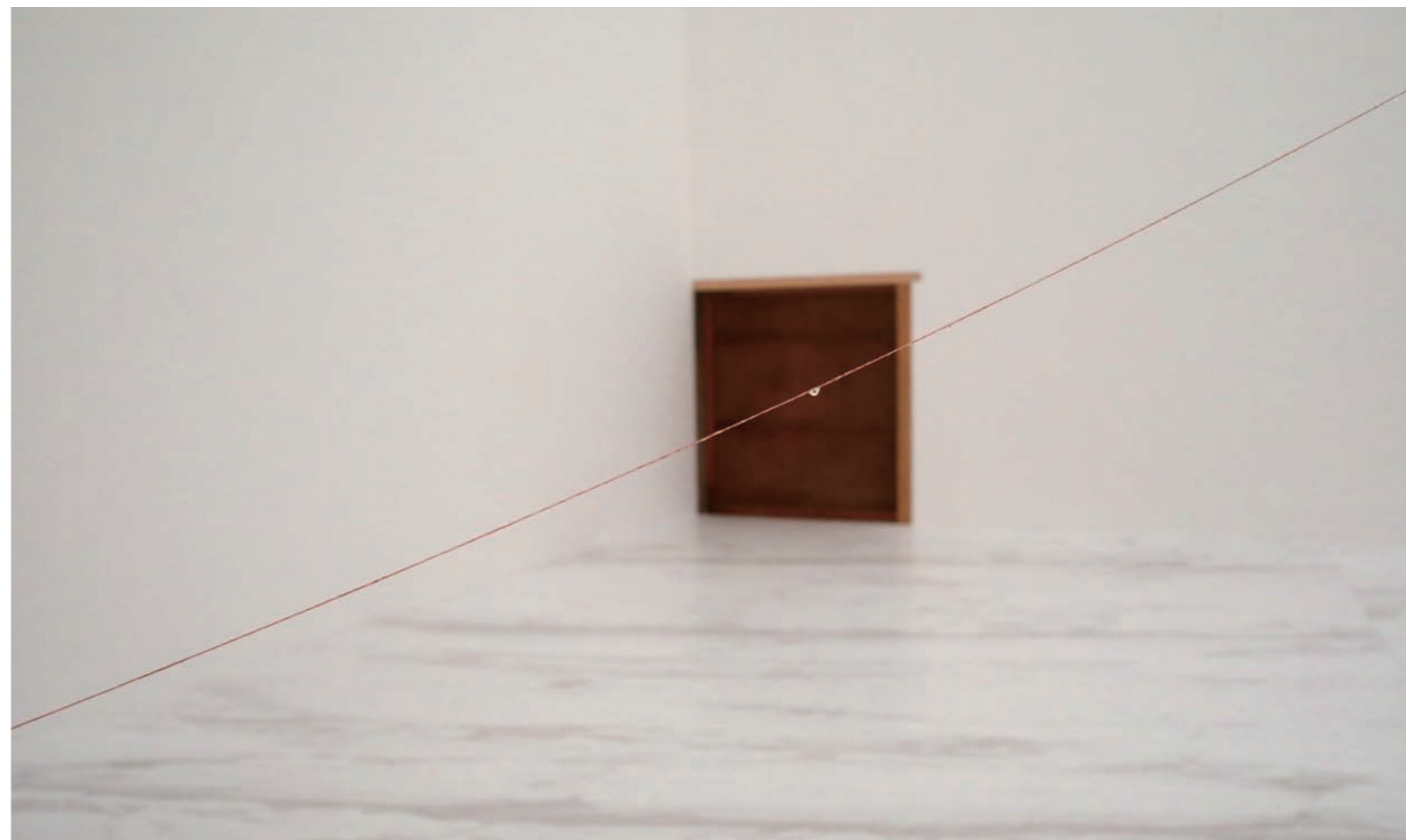
保良 雄

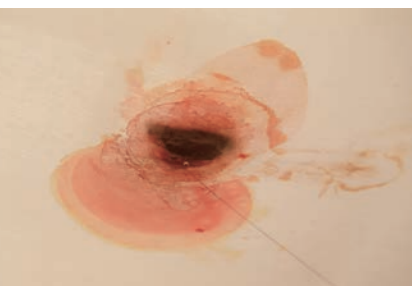
YASURA Takeshi



色は単なる物理現象や知覚現象ではなく、太古より人々が祈りを自然の理に捧げること
で汲み出された。天井から吊るされた糸を伝い、かつて国旗にも使われた日本茜から抽出
した液体は空気に漂う。自然の営みは空間のなかで機械の律動と交わりどこに接続され
てゆくだろうか。

Color isn't just a physical or sensory phenomenon, but something that was
offered as a prayer to the natural laws by peoples in times going back to
antiquity. Strings hanging down from the ceiling are soaked with liquid extract
from Japanese madder, once used in the national flag of Japan, as it drifts
through the air. The workings of nature interact with the rhythm of machines in
the space, connecting with one another to which point no one can say.





保良 雄 YASURA Takeshi

1984年滋賀県生まれ。フランス、東京都拠点。

Born in Shiga Prefecture in 1984 / Based in France and Tokyo.

2007 / 大阪芸術大学芸術学部工芸学科金属工芸コース卒業

2018 / 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

2018 / École nationale supérieure des beaux-arts de Paris 在学

2018 / END OF SUMMER / アメリカ

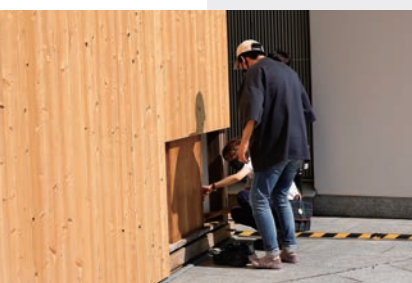
2019 / Espace de Réflexion—ジャン=リュック・ヴィルムートが伝えつづけた愛と学び— / 東京都

2020 / Jeune Création69 / フランス

2020 / 65e Salon de Montrouge / フランス

〈作品制作協力〉

矢橋大理石株式会社(協賛企業)、かさや儀平 杉本 一郎、今井 さつき、ウチダ リナ、大塚 諒平、川田 諒一、角田 里沙、中峰 渉、夏堀 陽一、古谷 由布



Title

石斧をモチーフにした石斧の彫刻

Stone axe sculpture with stone axe motif

Artist

山本麻璃絵 + 姫野亜也

YAMAMOTO Marie + HIMENO Aya



一人の作家が石斧の石の頭の部分を石彫で制作し、もう一人の作家が石斧の柄の部分を木彫で制作して、据える。国境も言語もない頃から存在している石斧をモチーフにかたちづくることで、人の根源的なつくる欲求を示す作品。

One of us carves the stone axe's head from stone while the other carves the handle from wood, and then the two are put together. These pieces show, with the motif of a stone axe, the fundamental desire of man to create that has existed since the time before borders or language.





山本麻璃絵 + 姫野亜也 YAMAMOTO Marie + HIMENO Aya

山本 / 1988年東京都生まれ。東京都拠点。

姫野 / 1990年大分県生まれ。東京都拠点。

YAMAMOTO: Born in Tokyo in 1988 / Based in Tokyo.

HIMENO: Born in Oita Prefecture in 1990 / Based in Tokyo.

〈山本〉

2010 / 武蔵野美術大学 造形学部彫刻学科 卒業

2011 / 第14回岡本太郎現代芸術賞 特別賞受賞 / 神奈川県

2012 / 武蔵野美術大学大学院 造形研究科美術専攻彫刻コース 修了

2015 / 「個展」ものごころ展 / ふなばしアンデルセン公園子ども美術館 / 千葉県

2016 / 「個展」彫刻と家と外 / gallery blanka / 愛知県

2017 / あなたが感じていること、わたしが感じていることは、ちがうかもしれない / はじまりの美術館 / 福島県

2018 / 「個展」wood shot / キヤノンデジタルハウス銀座 / 東京都

〈姫野〉

2012 / 武蔵野美術大学 造形学部彫刻学科 卒業

2013 / 「個展」隠沼 / いりや画廊 / 東京都

2013 / 第62回神宮式年遷宮奉賛 依代アートプロジェクト / 岩清水八幡宮 / 京都府

2014 / 武蔵野美術大学大学院 造形研究科美術専攻彫刻コース 修了

2015 / 「個展」姫野亜也 / いりや画廊 / 東京都

Artist's Comment

ジャンル不問の無差別級の公募、ともしれば殴り合いの乱闘になりそうなものだけれども、それをこの公募の特徴であるキューブが制してくれていたように思う。

制作期間が長く設けられ、長い時間キューブの事を考えてきたけれども、搬入・設営で実際に相対すると悪戦苦闘四苦八苦だった。現実のその場で自分が体感し反応すること、オンラインでは代替できないものやことを、強く強く感じる機会だった。



Title

Repeat

Repeat

Artist

Yuni Hong Charpe

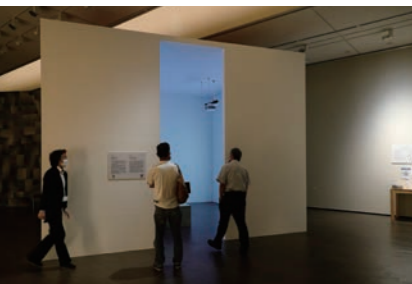
ユニ ホン シャープ



フランス語による親子の会話の映像と、朝鮮舞踊の断片的な動作を相互にやり取りするダンサーたちの映像を投影する。在日コリアンとして日本に生まれ、現在フランスで暮らす作家自身の記憶のゆくえを追う作品。

The piece projects a video of a mother and child's conversation in French and videos of dancers performing fragmented pieces of a Korean dance. It chases after the path of my memories, going from being born Korean Japanese to my current life in France.





Yuni Hong Charpe ユニ ホン シャープ

1981年東京都生まれ。フランス拠点。

Born in Tokyo in 1981 / Based in France.

2015 / パリ=セルジー国立高等芸術院 卒業

2015 / Mulhouse 015 ミュールズ国際青年ビエンナーレ グランプリ受賞 / フランス

2017 / ゲンビどこでも企画応募 島敦彦賞受賞 / 広島現代美術館 / 広島県

2019 / Festival 100% / Parc de la Villette / フランス

2020 / CND(フランス国立ダンスセンター)にて滞在制作 / フランス

現在 / パフォーマンスを中心とし、主にフランスで制作

〈作品制作協力〉

ダンス: ジェシカ・ゲズ、ゴレスタン・ウティ、アントワン・ヴァレ

子供: メイ

カメラ: シリル・シャルボンティエ

制作協力: ユン・ミュ

技術協力: 宮路 雅行

字幕翻訳協力: 西田 杏祐子

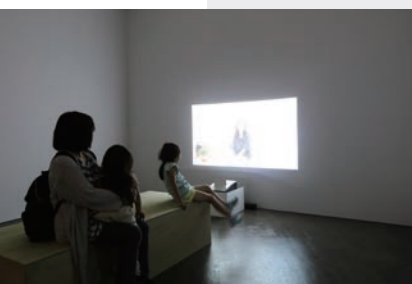
機材協力: ARTISTS' GUILD

スタジオ助成: CND Centre national de la danse, accueil en résidence.



Artist's Comment

搬入前に飛行機が飛ばなくなりどうなることかと思いましたが、予期しない様々な変更点にも柔軟かつ丁寧に対応して頂き、とても感謝しております。また、村瀬恭子審査員賞までいただくことができ、大変光栄です。今回と前回を通じ、ただ一人の女性審査員でいらっしゃる村瀬さん。その意味でも大変ありがたい受賞だと思っています。



Title

Light NOW—イマココ

Light NOW—Right NOW

Artist

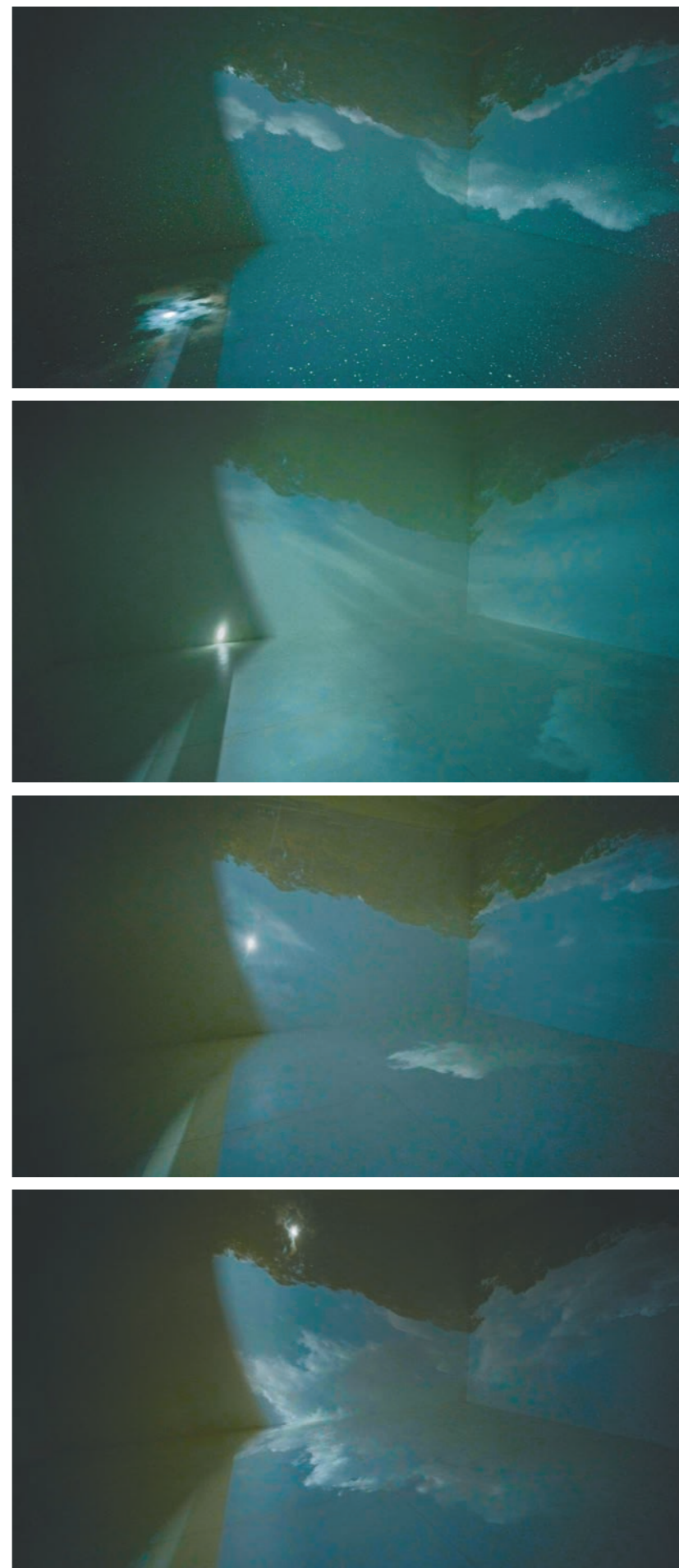
W.N.project

ワンニャー プロジェクト / 小島 久弥・江藤 苺夏



天井と壁の2か所に穴を持つカメラ・オブスキュラ(暗室)を制作。内部に映り込む外の風景や空、太陽光の軌跡で、時間を可視化する。時間を可視化し「イマココ」を見つめることで、「記憶のゆくえ」を探る作品。

This piece consists of a camera obscura (dark room) with two holes: One in the ceiling and one in a wall. The outside scenery and sky are reflected on the inside, and the path of the sun's rays make time visible. With time able to be seen, this piece lets us see "right now" and search for the answer as to "where our memories go".





W.N.project ワンニャープロジェクト / 小島 久弥・江藤 苜夏

2014年結成。愛知県拠点。

Formed in 2014 / Based in Aichi Prefecture.

2003 / 小島久弥、江藤苜夏 協同制作を開始

2005 / L gallery 開設

2014 / 小島久弥と江藤苜夏によるユニットを「W.N.project」と命名

2014 / 夏休み子どものプログラム2014 あっち?こっち?どっち? / 豊田市美術館 / 愛知県

2016 / 土の冒険のぼうけん MAGICAL MIRACLE CERAMIC / 岐阜県現代陶芸美術館 / 岐阜県

2017 / 時空散歩ー見えないはずの光景を / 岡崎シビコ / 愛知県

2018 / Critical Point - True Colors of The Ghost - お化けの正体 /

特定非営利活動法人CAS / 大阪府

2019 / あいちトリエンナーレ地域展開事業

「Windshield Time わたしのフロントガラスから」現代美術 in 豊田 / 喜楽亭 / 愛知県

〈作品制作協力〉

岩崎台・香久山福祉会館、ADCアート、小林大地、株式会社スタジオブルミエ、高柳有沙、船越浩海、株式会社マサシックス、ミラクルファクトリー（青木一将、小柴一浩、児玉佑司、松本崇宏）、小島章嗣



Artist's Comment

このような時世で開催できたことは、奇跡的であったと思う。開催時期がずれたことで、作品の有り様に多くの支障が出てしまったことは仕方なかったであろう。「キューブであること」「記憶のゆくえ」というテーマに興味を持ち応募したが、キューブである意味の感じられる作品が少なく、その点は残念に思った。

